

のどが狭い、あるいは口蓋垂（のどちんこ）が大きいために、いびき症や睡眠時無呼吸症候群(軽症)になる人がいます。

軟口蓋手術では、口の中より口蓋垂やその周囲の余分な粘膜を切除し、空気の通り道を広げます。

手術により症状の軽減は期待できますが、手術で広げられるスペースには限りがあるため、更にスプリント(マウスピースみたいなもの)やダイエットが必要な場合もあります。また、鼻づまりがある場合、そちらの治療も必要となります。

手術の方法； 咽頭(ノド)粘膜に麻酔薬を注射します。更に手術直前より、点滴で痛み止めの投与を開始します。必要により、麻酔薬の吸入やノドへの麻酔薬塗布もします。

手術の操作は全て口の中から行います。余分な後口蓋弓粘膜（口蓋垂の左右にある粘膜のひだ）を切除し、必要により口蓋垂の一部または全部を切除します。

止血後、切除範囲により必要なら切開部を縫合します。

終了すれば、問題になるような出血がないか等確認し、感染対策の抗生剤点滴をします。

術前処置開始から術後処置終了まで、大体2時間かかります。

手術に際し起こりうること；

- ・ 出血： 咽頭粘膜は血管が豊富なので、思わぬ出血をすることがあります。血がサラサラになる薬を内服している方は、術前に内服中止をする場合がありますので、お知らせください。
- ・ 薬アレルギー： 麻酔薬や抗生剤に対するアレルギー反応で、ショックに陥ることがあります。以前に薬を使って気分が悪くなったことがあるような方は、お知らせください。
- ・ 脳貧血： 極度の緊張や、痛みを我慢し過ぎると、自律神経が刺激されて、気分が悪くなったり、血圧が下がって意識がなくなったりすることがあります。少しでもおかしい気がしたら、手術中でもすぐにお知らせください。
- ・ 感染： 創部に細菌感染を起こすと、強い咽頭痛と高熱が出る場合があります。
- ・ 鼻咽腔逆流： 手術直後や、術後の瘢痕(傷のひきつれ)が予想以上に強いと、水を飲んだときに鼻に回りやすくなる場合があります。しかし、通常は1ヶ月もすれば症状は消失します。

術後の経過； 術後2,3日で、感染等の問題がないか診察を受けてください。縫合した場合は、1週間後に抜糸をします。途中で糸が自然にとれてしまうことがありますが、その時はそのまま大丈夫です。

少量の出血は術後数日続きます。

2週間程度はかなり強い痛みが出やすく、物を飲み込んだり、しゃべったりしにくくなります。

食事は、薄味でやわらかいものにして、刺激物や硬いもの、とがったもの、飲酒は避けてください。

手術にかかる費用（3割負担の場合）；

術前検査：診察料の他に¥5000程度

手術当日：¥31000程度